

# 仲間と協力して作った木箱の中が、森の宝物でいっぱいに！

## 令和5年度 緑の少年団交流集会『森からのおくりもの木箱づくりと宝物さがし』活動レポート

1月27日（土）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会』が静岡市のしづおか里山体験学習施設遊木の森はらっぱ部にて開催されました。当日の朝は薄曇りの天候でしたが午後には青空が見えるなど、森の中を探検するには良い天候に恵まれました。季節がら体調を崩す子が多く、参加が叶わない子供もおりましたが、県内3団体9名の子供達が参加してくれました。朝から元気な子供たちは、受付を済ませるとはらっぱに駆け出し、木登りをするなど交流会が始まる前からワクワクしている様子でした。

### みんなと仲良くなろう！アイスブレイク

午前10時、まんなか広場に緑チームと赤チームに分かれて集まりはじまりの会からスタート。NPO法人しづおか環境教育研究会『エコエデュ』のスタッフが当日のスケジュール説明や注意事項、スタッフ紹介を行った後、「みんな何か目印になるものを拾ってから丸くなるように足元に目印を置いてね！これからなんでもバスケットをやります！」『なんでもバスケット』は、みんなが楽しく、仲良くなるためのアイスブレイク。『フルーツバスケット』の改良版で、代表者が言ったお題に該当する人が、その場を動いて、動く際にタッチをしながら移動するゲームです。「ラーメンが好きな人！」というお題では、ほぼ全員が移動するなど大盛り上がりでした。



まずは受付。朝から元気な子供たち。



なんでもバスケットで大盛り上がり。



各自に木箱のパーツが配されました。



2人組で協力して組み立てます。



ヤスリを使って細部までこだわります。



名前を書いて完成！

### まずは木箱づくり！仲間と協力して作る

アイスブレイクの後は、2チームに分かれて木箱を作ります。事前に準備された木箱キットがそれぞれに配られ、スタッフから組み立て方の説明を受けると、早速2人一組になって協力しながらパーツを組み立てていきます。トンカチの使い方も教わると、「この溝に入れてから釘を打つんだよ。」「ちょっとここ押さえてて。」「釘が曲がってるー！」など色々な声が飛び交う中、集中しながらも楽しそうに作業していました。子供によって作業の仕方も個性があり、パーツがピタッと合うように慎重に組み合わせ、細かなところまでこだわって作る子もいれば、ちょっとずれていたり釘がとびだしてしまっても気にせず「大丈夫！大丈夫！」と言いながら組み立ててあっという間に仕上げる子もいました。上級生が下級生に優しく教えている姿も印象的でした。形が組みあがったら、次は仕上げのヤスリかけです。ここでも子供たちに差があり、ヤスリをかけては、木肌を触って感触を確かめながらスベスベになるまで時間をかけて作業をしている子もいれば、少しだけかけて「できたー！」という子もいて、見ていてほほえましい光景でした。

### 木箱に好きなものを描こう！

「木箱が完成したら、最後にマジックで好きなように書いていいよ！自分の木箱と分かるように名前は書いてね。」とスタッフからマジックが渡されました。令和2年に同じプログラムが開催された際には木箱の側面全部に、花や船など好きな絵を描く子がほとんどでしたが、今年度は絵を描く子は一人もおらず、名前だけを書いて完成としていました。「絵を描いてもいいんだよ。描かないの？」と尋ねると「シンプルがいいの！シンプルイズベスト！」という答えがかえってきました。時代によって子供の感覚も違うことを実感しました。

## いよいよ森の中へ。宝さがしスタート！

昼食の後は、自分で作った木箱を下げていよいよ宝さがしです。スタッフから「みんなが作った木箱の木は何の木か分かるかな？香りも嗅いでみてね。」という問い合わせに「知ってる！杉の木！家の近くに生えているよ。」という声が。「おーよく知ってるね。みんなが作った木箱の木と同じ木がこの森の中にあるから探してきてね！」「見つけやすいようにヒント！」と言って杉の木の皮と葉を子供たちに渡しました。「それ以外にも、自分がいいなと思った宝物を木箱にいっぱい集めてきてね！」と子供たちにミッションを与えました。代表の子がそのヒントを持っていよいよ森の中へ。宝さがしのスタートです。森の中の道を歩きながら、おもしろい形の葉やどんぐりを見つけては木箱の中に入れていきます。「見てみて！ぐるぐるしていくおもしろいよ。」芽吹きたてのゼンマイを茎から採って大切そうに持つて歩く子もいました。しばらく歩くと、ヒントでもらった木の皮と葉が似ている木を発見！「あそこに木箱の木がある！」「絶対間違いない！」「葉っぱの匂いも一緒」と言ってヒントと見比べながら検証し間違いないことを確認すると発見の喜びで子供たちの表情が華やぎました。その後一人の子が木箱の木を見つける度に、枝と握手をしていました。「木と仲良しになるね。」と声をかけると「木と契約をしてるんだよ。」という答えが。「何の契約なの？」と問い合わせると「好きに生えていいよっていう契約。木でいっぱいになるように。」という優しい答えが返ってきました。子供ならではの感性に感動を覚えました。その他にも、枝に拾ったクリのイガをつけてマイクの形を作り、太い木の幹肌にあてている子に何をしているのが聞くと、「木にインタビューしてるの。」「木はなんて言ってる？」「うーん何も聞こえない。」と言いながらも木と心で会話をしているんだろうなと感じる一時でした。

## 集めてきた宝物を発表！

『木箱の木を見つける！』というミッションを無事にクリアし、広場に帰ってきてから、まずはチームごとに分かれてそれが集めた宝物を観察です。赤チームは女の子が多くなったこともあり、赤い木の実やどんぐり、木の皮など木箱いっぱいに宝物が入っていました。「これはきれいな赤い実。」「これはおもしろい形の葉っぱでしょ。これはキノコ。」と自慢の宝物を見せながら感想を仲間に伝えます。一方の緑チームは男の子だけだったこともあり、探検がメインで木箱の中は赤チームに比べると宝物が少ない印象でした。そんな中でも、お気に入りの逸品を自慢する姿に楽しかった時間を感じることができました。

おわりの会では、チームごとに集めた宝物の発表がありました。スタッフから木箱の木の元となっている杉の丸太を見せてもらうと珍しかったのか触って感触を確かめたり、香りを嗅いだり、先程自分たちが森の中で見てきた木と同じことに驚いていました。「木はみんなの身近な道具にもなっているよ。えんぴつもそうだし、トレーもそうだしね。」子供たちは、えんぴつなど身近なものが木でできていることを改めて感じているようでした。

森や木と直接触れ合うこのような体験を通して、森を大切に育む心が育っていくのではないでしょうか。

より多くの子供たちがこのような体験ができる環境づくりが重要な日でした。



作った木箱を持って宝さがしスタート！



歩きながら宝物集め！



木箱と同じ木を発見！



木箱の木と握手。



集めた宝物をみんなで観察



木が身近なことを実感！